

第 19 期 pES club シナリオ 2

2019 年 2 月 23 日

横浜市立市民病院 薬剤部

五十嵐 俊

JCHO 東京城東病院 総合診療科

南郷 栄秀

あなたは名羅手部総合病院の門前薬局に勤務する 3 年目の薬剤師です。

猶蘭伊汰美さん（68 歳女性）は 30 年来の腰痛に悩まされて近所のクリニックに通院していましたが、昨年秋に帯状疱疹を患い 3 週間入院しました。退院後、もとの腰痛に帯状疱疹の痛みが加わったため、苦痛に感じているようです。ある日いつものように調剤薬を手渡し、薬の説明をしている時に患者さんから相談を受けました。

猶蘭「薬たくさんもらっているけれど全然良くならないのよね。この痛みのせいで夜もぐっすり眠れないし、昼間だって思うように家事もできないのよ。孫が遊びに来たって一緒に出かけることもできないしほんと嫌になっちゃう。この痛みなんとかならないかしら」

猶蘭さんに何か支援はできないかと悩みながら薬歴を記載していると、先輩が声を掛けてくれました。

先輩「そういえば慢性疼痛に適応がある医療用麻薬（オピオイド製剤）もあったはずよ。そんなに辛いなら主治医にオピオイドの処方を提案してみたらどうかしら」

でも癌でもないのにオピオイドなんて使って大丈夫なんだろうか。たしかアメリカでは安易な処方依存患者が多数発生している事が社会問題になってるとニュースで耳にしたことがあります。とはいえ鎮痛剤だけでもかなりの種類を使用しているのでオピオイドスイッチとすることで減薬できればとも思います。

あなたはがん性疼痛ではない慢性疼痛に対してオピオイドが有効なのか調べてみることにしました。